

造林作業の軽労化に向けて ～クリーンラーチコンテナ苗で下刈省略～

十勝西部森林管理署東大雪支署 森川 周 鈴木 啓之

研究の背景・目的

近年、北海道の人工林の多くが主伐期を迎え、主伐再造林の増加が見込まれる中、造林従事者は減少しています。今後は造林作業の軽労化をより一層進め、「新しい林業」を推進することが必要です。

そこで当署では

- ・ 笹・大型草本の根茎を除去し植生の回復を遅らせる大型機械地拵
- ・ 成長の速いクリーンラーチと初期成長の良いコンテナ苗

を組み合わせることで、下刈の省略について検証してきました。

本発表では現時点の成果について報告します。

研究の内容

○実証地の概要

新得町屈足国有林1319林班ほ、と小班
H30 地拵・植付

○調査プロット設定

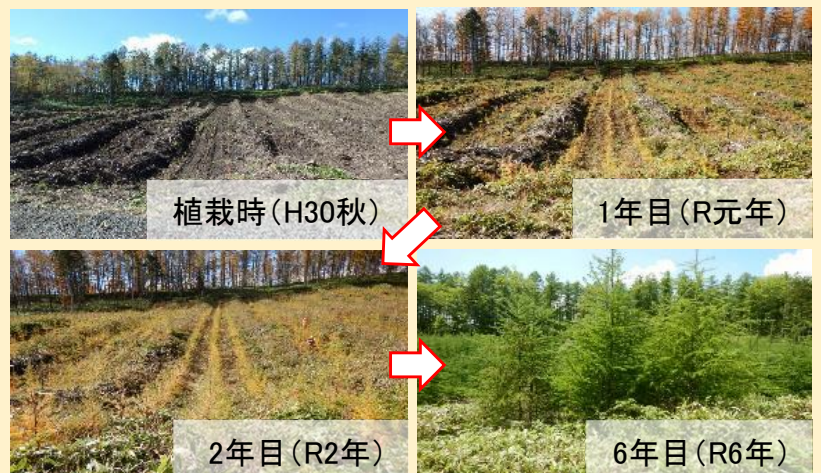
通常密度プロット：200本
低密度プロット：200本

○調査方法

苗長を植栽時、1,2,5,6年目に調査
胸高直径を植栽時、5,6年目に調査



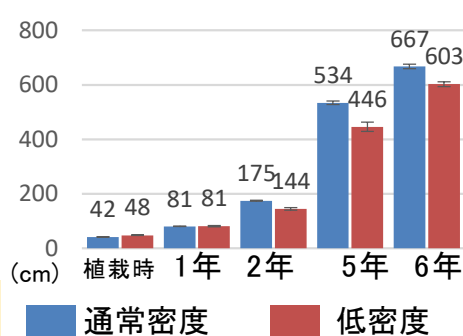
○プロットの様子



調査結果

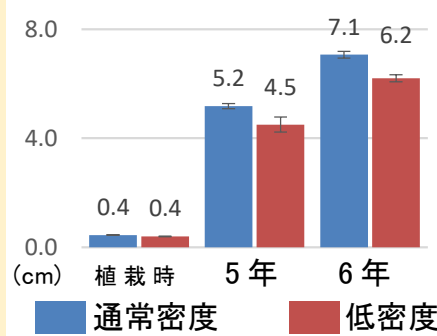
○苗長

2年目で下層植生の高さを越え
6年目で6mほどに成長



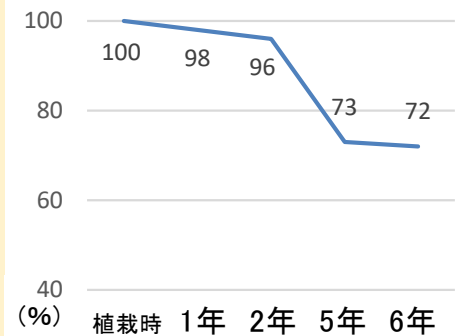
○胸高直径

6年目で6～7cmほどに成長



○生存率

6年目での生存率は7割程度
植栽密度による違いは無し



まとめ・今後の展開

今回の実証地の調査結果からは、大型機械地拵＋クリーンラーチコンテナ苗による下刈の省略が可能であることが実証されました。

今後、植栽密度に応じた間伐の実施時期など効率的な施業を検討し、引き続きこれらの成果により「新しい林業」を一層推進してまいります。